

○八戸藩の歴代藩主(1代～5代)

	1代	2代	3代	4代	5代
藩主名	ナンブ ナオフサ 南部直房	ナンブ ナオマサ 南部直政	ナンブ ミチノブ 南部通信	ナンブ ヒロノブ 南部広信	ナンブ ノブオキ 南部信興
続柄	盛岡藩初代藩主南部利直の7子。 母は盛岡藩士中里嘉兵衛正吉の妹(のちの仙寿院)。 盛岡生まれ、幼名は辰。のち中里を名乗り、数馬と称す。 室は盛岡藩士川口与十郎の娘(のちの霊松院)。	直房の長男。 母は家臣川口与十郎の娘(のちの霊松院)。 盛岡に生まれ、初名は武太夫。 室は盛岡藩4代藩主南部行信4女の志久姫。	盛岡藩3代藩主南部重信の4男。盛岡藩から養子に入る。 母は八戸新井田村の松橋孫助の娘で、沢(のちの浄生院)という。 幼名は内匠、のち、右近と称する。 室は 加賀大聖寺藩主前田利明の娘友姫。	通信の長男。 幼名は宮内。 室は丹後国亀山藩主松平信庸の娘秀姫。	広信の長男。 幼名は亀之助。初名と隠居後は智信を名乗る。 室は大和国芝村藩主織田輔世の娘。
官名	左衛門佐	遠江守	遠江守	甲斐守	左衛門尉
生没年	寛永5年(1628) ～ 寛文8年(1668)6月24日	寛文元年(1661)5月6日 ～ 元禄12年(1699)3月16日	延宝元年(1673)2月11日 ～ 享保元年(1716)8月24日	宝永3年(1706)3月7日 ～ 寛保元年(1741)5月2日	享保10年(1725)9月25日 ～ 安永2年(1773)8月13日
没年齢	41才	39才	44才	36才	49才
在職年	寛文4年(1664)12月6日 ～ 寛文8年(1668)6月24日	寛文8年(1668)8月21日 ～ 元禄12年(1699)3月16日	元禄12年(1699)5月13日 ～ 享保元年(1716)8月24日	享保元年(1716)10月26日 ～ 寛保元年(1741)5月2日	寛保元年(1741)6月24日 ～ 明和2年(1765)5月29日
在職年齢	37～41才	8～39才	27～44才	11～36才	17～41才
在職年数	5	32	18	26	25
在職中の主な出来事	寛文4年(1664) 二万石で八戸藩誕生 寛文5年(1665) 八戸藩領地が決定。三戸郡のうち41ヶ村、九戸郡のうち38ヶ村、志和郡のうち4ヶ村、合計83ヶ村。八戸城を居城と定める。 寛文5年(1665) 六日町より出火、11軒焼失 寛文8年(1668) 久慈の鉄を盛岡へ送る。以後、鉄は、特産物として他領へ移出	延宝元年(1673) 足軽町から出火 20軒焼失 延宝2年(1674) 大地震 十三日町から出火し、三日町へ延焼 時鐘を馬場町に設置 延宝5年(1677) 強震で各地で被害、余震続く。 領内総検地終了 延宝6年(1678) 大火で八日町中ほどから廿八日町まで表裏残らず焼失 延宝7年(1679) 白銀浜に寄り鯨 天和元年(1681) 白銀浜に寄り鯨(36頭) 白銀村の八戸道にある小流へ鯨骨を架橋し、鯨橋と称する。 貞享4年(1687) 藩主直政が詰衆となる。 元禄元年(1688) 藩主直政が將軍綱吉の側衆、側用人となる。 元禄8年(1695)～ 大凶作 領内人口58,507人	～元禄16年(1703) 大飢饉による餓死者16,745人 宝永3年(1706) 鯨の蕪島に堂守を新造し、弁財天を勧請 宝永4年(1707) 湊村川口に十分一役所設置。漁船から漁獲高の10分の1を徴収する。 同年、地震による津波	享保6年(1721) 法霊神輿、初めて長者山へ渡御 (八戸三社大祭の始まり) 享保10年(1725) 正月、荒町より出火、69軒焼失 享保17年(1732) 領内の人口 56,401人 元文2年(1737) 廿三日町神明宮の祭礼。以後、毎年行われる。	寛延2年(1749) 猪飢渴 (イノシシケガジ)による翌年までの餓死者3,000人 宝暦3年(1753) 冷害と風水害、大凶作 宝暦6年(1756) 飢饉による死絶者多し。領内の人口 45,367人 宝暦12年(1762) 大地震、湊村に津波 宝暦13年(1763) 大地震、津波、大洪水にて開藩以来未曾有の大凶作となる。

出典 ・「八戸藩の歴史をたずねて」 三浦忠司

- ・「写真が語る八戸の歴史 世紀を超えて 近世編」 八戸ガス興業株式会社
- ・「新編 八戸市史 通史編Ⅱ 近世」 八戸市
- ・「青森県人名事典」 東奥日報社
- ・「八戸南部氏稿」 八戸市
- ・「南部八戸の城下町」 高島成侑、三浦忠司

○八戸藩の歴代藩主(6代～9代)

	6代	7代	8代	9代
藩主名	ナンブ ノブヨリ 南部信依	ナンブ ノブフサ 南部信房	ナンブ ノブマサ 南部信真	ナンブ ノブユキ 南部信順
続柄	信興の長男。 幼名は亀次郎、のち左近と名乗る。 室は伊予吉田藩主伊達村信の娘慶姫。	信依の長男。 幼名は繁松、のち右近と名乗る。 室は越後新発田藩主溝口主膳直養の娘よし姫。	信依の4男、信房の弟。 幼名は安吉。 室は相模小田原藩主大久保忠真の妹里姫。	鹿児島藩8代藩主島津重豪の子で13男とも5男ともいわれる。 母は松平氏。 幼名は虎之助、のち篤之丞と名乗る。 信真の養子となり、8女の鶴姫と縁組。
官名	甲斐守	伊勢守	左衛門尉	遠江守
生没年	延享4年(1747)2月10日 ～ 天明元年(1781)6月7日	明和2年(1765)6月15日 ～ 天保6年(1835)5月16日	安永7年(1778)2月1日 ～ 弘化3年(1846)12月29日	文化10年(1813)1月11日 ～ 明治5年(1872)2月20日
没年齢	35才	71才	69才	60才
在職年	明和2年(1765)5月29日 ～ 天明元年(1781)2月14日	天明元年(1781)2月14日 ～ 寛政8年(1796)2月13日	寛政8年(1796)2月13日 ～ 天保13年(1842)5月11日	天保13年(1842)5月11日 ～ 明治4年(1871)7月14日
在職年齢	19～35才	17～32才	19～64才	30～59才
在職年数	17	16	47	30
在職中の主な出来事	明和2年(1765) 湊橋架け替え。 領内の惣馬改め(馬の戸籍調査) 明和6年(1769) 大地震 明和8年(1771) 寺横町、大工町全焼	天明3年(1783) 未曾有の大飢饉 天明4年(1784) 新井田の対泉院に餓死萬霊等供養塔建立 領内人口65,000人余りの内、30,000人余り死亡と記載あり。 寛政7年(1795) 長者山念仏堂で天明3年飢饉の供養を行う。 久慈(領内)で一揆、家老処分	文化3年(1806) 廿六日町より出火、170軒焼失(セツ家焼け) 文化7年(1810) 領内の人口51,396人 文政2年(1819) 野村軍記を藩政改革の責任者に登用し、改革を推進させる。 文政8年(1825) 廿三日町より出火、242軒焼失 文政10年(1827) 長者山新羅神社造営 騎馬打毬の始まり。 文政12年(1829) 惣門町より出火、404軒焼失(惣門町焼け) 天保3年(1832) 天保9年まで連続7年凶作 天保5年(1834) 領内百姓一揆(稗三合一揆) 藩政改革の責任者野村軍記が失脚	天保14年(1843) 鮫沖に異国船出沒 安政元年(1854) 沿岸警備を目的に、八戸領内8ヶ所に台場(砲台)を築く。 元治元年(1864) 廿三日町より出火、317軒焼失(清次郎焼け) 明治元年(1868) 野辺地で弘前藩と交戦 明治2年(1869) 版籍奉還により、藩主信順が藩知事となる。 明治4年(1871) 廃藩置県により廃藩同年、青森県誕生